

駒場友の会

会報第21号

ダンス・ツイオとトステイ

ダンス・ツイオとトステイと言っても日本ではあまり馴染みがないかもしれませんが、イタリアでは広く知られた詩人と作曲家で、国民的な芸術家として親しまれています。

今年はそのダンス・ツイオ(一八六三年生まれ)の生誕一五〇周年に当たることから、日本でも様々な記念行事が開かれています。駒場では「ダンス・ツイオとトステイ…音楽と詩の出会い」と題する講演・演奏会が四月八日(月)に開催されました。駒場博物館の主催、イタリア大使館などが



後援、駒場友の会は協賛。ダンス・ツイオの詩を多くの歌曲に作曲しているトステイ

との関係に焦点をあてたこの催しは、演奏と講演を交互に行うというユニークなもので、会場となった教養学部学際交流ホールは、立ち見で満員の盛況となりました。テノール独唱は教養学部(化学)の小川桂一郎教授、ピアノは本学大学院生の高雄有希さん。講演は、本郷の南欧語南欧文学の長神悟教授とイタリア国立トステイ協会名誉会長のフランチェスコ・サンヴィターレさん。司会と通訳は教養学部(イタリア語)の村松真理子准教授。

東京大学は研究の質の高さでも世界のトップレベルですが、幅の広さも強みです。そうした東大の力が遺憾なく発揮された講演・演奏会となり、参加された駒場友の会の会員・会友の方々にも大変に好評でした。

駒場博物館では十月十九日から、特別展「ダンス・ツイオに夢中だった頃…カプリエーレ・ダンス・ツイオ生誕一五〇周年記念展」が開催されます。詳細は、<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/>こちらにもぜひお出ください。

新入生歓迎特別講演会

駒場友の会では新しい学生を迎えるイベントとして「新入生歓迎特別講演会」を毎年四月に開催しています。今年は第五回となります。酒井邦嘉先生による「脳を創る読書とは」と題して四月一五日(月)に新しい教室棟21K0MCEE地下一階レクチャーホールで開催しました。

酒井邦嘉先生は言語脳科学者。大学院総合文化研究科・教養学部教授。言語と脳という文系・理系を横断する研究の第一人者で、多数の著書もお書きになっています。多くの新入生に加えて、駒場友の会の会員・会友も参加しました。

左の写真にあるような脳の働きについての説明とあわせて、理解するとはどういうことか?、理解することと分かることとの違い、「聞く・読む」と「話す・書く」の働きなど、興味深いお話の連続で参加者一同夢中になって講演を聞きました。

本を読む活動には、適度に情報が少



ないという特色があり、その分想像力が必要になる、本を読むことで想像を働かせる脳の力を鍛えることが出来るという講演の趣旨は見事に説得的でした。

私たちは情報を得るという意味ではインターネットやメールで用が足りる生活をしていて、本を読むという習慣からついつい離れてしまいがちですが、紙に書かれたものを読むという人類二

千年の蓄積はおろそかにはできません。そうしたことを深く考えさせられる講演会で、新入生向けの行事として大変に意義深いものでした。

新入生父母と

学部長との懇談会

駒場友の会には、毎年四月五月に新入生のご父母が多数入会されます。今年は六〇〇名余りの方々にご入会いただき、ありがとうございます。新しく入会されたご父母二三〇名ほどを駒場キャンパスにお招きして、恒例の「学部長との懇談会」を五月一日(土)に開催しました。

学部長の講演(九〇〇番教室)、キャンパスツアー、懇親会(生協食堂)の三部構成となっています。キャンパスツアーでは、約十名に分かれた参加者を三〇名ほどの教員が引率して、図書館、講義棟、課外活動施設、食堂、購買部、博物館、教員研究室等にご案内しました。写真はロバート・キーンベール先生の引率でキャンパス



を回るグループの様子です。

「こんなに広くて緑豊かでステキなキャンパスに息子が通っていると思うと本当に幸せだなと思いました」参加してよかったです。九〇〇番教室では意表をついたパイプオルガンの演奏にはじまり、講演では石井洋二郎教養学部長のユーモアまじえたお話をうかがいました。また懇親パーティでは地方からでてこられたお母さまともお話ができ、楽しかったです」など多数の感想を頂戴しました。

当日の写真など詳しい様子は以下のホームページをご覧ください。ご参加いただいた方、ご参加いただけなかった方に、お礼とお詫びを申し上げます。
<http://www.cu-tokyo.ac.jp/ilovekomaba/>

第十回総会報告

第十回総会を、五月二十五日(土)十六時四十五分より、駒場コミュニティセンターシヨンプラザ北館二階多目的教室で開催しました。

小林寛道会長の議事進行により、石井洋二郎教養学部長の挨拶で始まりました。審議は以下の(一)～(五)の議案について行われました。

(一)二〇一二年度事業報告

瀧田佳子理事より報告がありました。

①懇談会・講演会・演奏会などの開催主催行事は以下の通り。新入生歓迎特別講演会(四月二〇日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月十九日)／ホームカミングデイ行事(十月二〇日)

第十三回演奏会…ギターソロ演奏、時計台公開／味覚のアトリエ@駒場(十月二三日)／ロコモ体操教室の定期開催／駒場音楽振興基金の活用

②会報の発行、ホームページの拡充
会報は十九号を九月に、二〇号を三月に発行

③「学生のための寄付」とカレンダーの製作販売

五月と年度末に「学生のための寄付」を実施し、それぞれ一、九二一、〇〇〇円、一、二三、〇〇〇円(計三、一三四、〇〇〇円)のご協力をいただいた。お預かりした寄付は、学生の国際交流活動の支援や図書の寄贈(GENKI BOOKSの拡充)などに充てた(以下の明細を参照)／ユータスくん学事カレンダー二

〇一三年度版の製作(壁掛け版と卓上版)

④会員・会友数(三月末日)

終身会員一〇三名、通常会員五一三名、会友二、八八六名。一高同窓会二一五名、東高同窓会九八名。計三、八一五名(前年度末より五七一名増)

(二)二〇一二年度決算

事務局より別表のとおり決算の報告が行われ、山影進監事よりその内容が適切である旨、監査報告がありました。

(三)二〇一三年度事業計画

瀧田理事より説明がありました。

①懇談会・講演会・演奏会などの開催新入生歓迎特別講演会(四月十五日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月十八日)／ホームカミングデイ行事(十月十九日)第十四回演奏会…卒業生

によるピアノ演奏／味覚のアトリエ@駒場(十月末)／ロコモ体操教室の定期開催(毎月二回)／駒場音楽振興基金の活用

②会報の発行

二〇号を九月に、二二号を三月に発行

③その他

「一高同窓会事務の引き継ぎに関する規則」を制定する。また、「一高同窓会基金」を創設する。

(四)二〇一三年度予算

事務局より別表のとおり説明がありました。

(五)役員の選任(一部交代)

会長…小林寛道 副会長…竹田晃
遠山敦子 理事…浅野攝郎、江川雅子
風間勝昭、木畑洋一、小島憲道

収入の部

	2012年度予算	2012年度実績	2013年度予算
1 会費収入	8,600,000	9,216,000	9,000,000
11 通常会員会費	2,000,000	2,106,000	2,000,000
12 会友会費	5,700,000	6,842,000	6,500,000
13 終身会費	900,000	268,000	500,000
2 寄付収入		3,165,000	5,000,000
21 学生のための寄付	3,150,000	3,134,000	4,850,000
22 その他		31,000	150,000
3 事業収入		446,900	445,000
31 2013ユータスくんカレンダー		136,420	135,000
32 味覚のアトリエ@駒場		30,000	30,000
33 2014ユータスくんカレンダー		280,480	280,000
4 雑収入	5,565	4,484	4,500
41 預金利息	2,565	1,484	1,500
42 その他	3,000	3,000	3,000
小 計	11,755,565	12,832,384	14,449,500
前年度繰越金	8,693,427	8,693,427	8,844,529
合 計	20,448,992	21,525,811	23,294,029

支出の部

	2012年度予算	2012年度実績	2013年度予算
1 印刷費	890,000	1,187,758	1,200,000
11 会報・案内等の印刷費	590,000	705,911	720,000
12 封筒・便箋等の印刷費	300,000	481,845	480,000
2 通信費	1,390,000	1,745,697	1,760,000
21 郵送料	1,300,000	1,626,420	1,650,000
22 電話使用料	90,000	119,277	110,000
3 事務経費	610,000	704,710	620,000
31 事務用品費	200,000	250,453	200,000
32 ゼロックス使用料	190,000	220,914	190,000
33 会費等振込料金負担分	220,000	233,343	230,000
4 人件費	2,180,000	1,943,406	2,150,000
41 事務局スタッフ	1,950,000	1,832,406	1,950,000
42 臨時	230,000	111,000	200,000
5 運営費	1,463,500	1,750,053	1,725,800
51 事務室借料	233,500	233,500	205,800
52 光熱水料	70,000	69,750	70,000
53 会員証作成費	750,000	734,894	750,000
54 入会勧誘活動費	200,000	297,045	300,000
55 庶務費	210,000	414,864	400,000
6 事業費	2,100,000	1,919,242	2,100,000
7 寄付	3,100,000	3,430,418	4,850,000
8 予備費	22,065	-	43,700
小 計	11,755,565	12,681,282	14,449,500
次年度繰越金	8,693,427	8,844,529	8,844,529
合 計	20,448,992	21,525,811	23,294,029

2012 年度 「学生のための寄付」 使途明細

駒場図書館	1,088,988 円
AIKOM 研修ツアー	398,190 円
PEAK プログラム	235,000 円
駒場祭 2012	500,000 円
ハーバード大学交流プログラム	300,000 円
北京大学交流プログラム	300,000 円
東アジア 4 大学合唱祭	200,000 円
三鷹国際学生宿舍	408,240 円
合計	3,430,418 円

瀧田佳子、坪井俊、蓮實重彦、松本健
監事…関谷孝、長谷川壽一
以上の議案はすべて提案の通り承認
されました。詳細は、駒場友の会のホームページをご参照ください。

「ラテンアメリカ異文化と出会う」レクチャー・コンサート

竹村 文彦

私たちスペイン語部会の教員は、一、二年生にスペイン語を教えることを主な仕事にしています。スペイン語を第二外国語として選択する学生は多く、今年度は英語を除けば履修者数の最も多い外国語となっています。

私たちの語学教育の大きな特色は、インターネットを活用していることです。ホームページ上で発音や語彙、文法などをインターアクティブに学ぶことが出来るように工夫されています。ぜひ一度覗いてみてください。

<http://spanish.ecu-tokyo.ac.jp/>

部会では、言語のみならずスペイン語圏の社会や文化・歴史に興味を抱いてくれるよう、隔年で「主題科目・テーマ講義」というリレー講義を開講し、この地域に関する入門講座としています。

今年度夏学期の入門講座では、「ラテンアメリカ、異文化と出会う」というテーマを掲げました。ラテンアメリカ



は昔から、西欧、アメリカ、アフリカ、アメリカ、合衆

国などさまざまな地域の文化に出会い、ときには葛藤を体験してきました。そうした出会いから何が生まれたのかという問題を、歴史学、文化人類学、社会学、文学など多様な学問分野の見地から検証しようというのが今回の講座の狙いです。たとえば、ブラジル先住民がビデオカメラと出会うことで、どのような自己表現を獲得するに至ったのかに注目して彼らが実際に撮影した作品を紹介したり、メキシコ社会とグローバル化との出会いを論じたりする内容でした。

一連の講義の目玉として企画されたのが、五月二十八日(火)の下山静香氏によるレクチャー・コンサート「スペイン&ラテンアメリカ…心揺さぶるピアノ音楽の魅力」です。駒場コミュニケーションプラザ北館二階音楽実習室にて。

下山さんはマドリッドで演奏を学ばれ、イタリアをはじめヨーロッパ各地での音楽祭・マスタークラスに参加されている新進気鋭のピアニストです。

彼女はまず、スペイン音楽の特徴を語り、それがどのような形でラテンアメリカに伝わったのかを具体的に説明されました。それから、ファリャ(スペイン)の「火祭りの踊り」、レクオーナ(キューバ)の「真夜中のコンガ」「ラ・コンパルサ」、ヴィラロボス(ブラジル)の「白いインディオの踊り」など、広範な地域にわたる作曲家の多彩な曲目を演奏され、満場の聴衆の耳と心を捉えました。素晴らしい生演奏

に適切な解説が加わることで、ラテン系音楽の広がりや奥行きがじかに伝わってくるようでした。

コンサートの後で学生に書いてもらったアンケートでも、「下山さんの演奏には圧倒され、気付かないうちに夢中になっていた」「この内容は九〇分では足りないと思った」など、大好評を裏づける言葉をもらいました。

下山静香氏のレクチャー・コンサートは、駒場友の会から全面的なご支援をいただいていたはじめて実現しました。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。

(教養学部准教授、スペイン語部会)

グローバルゼーション オフィス@駒場

矢口 祐人

グローバルゼーションオフィス(GO)は、二〇一三年四月に教養学部国際交流センターの一部として設立されました。最新の教育棟 21KONCEE の地下にオフィスがあります。カフェとレクチャーホールに隣接しており、開かれた雰囲気になっています。

GOは駒場キャンパスのグローバル化を加速化するために設けられました。近年、東京大学では教育の国際化の重要性が盛んに強調されていますが、学部で学ぶ留学生数、および海外へ留学する学部生の数は非常に少ないのが現状です。この状況を打破するために、GOは(1)学生間の国際交流、(2)留

学に関心のある学生への情報提供、(3)日本語を話さない留学生に対するアカデミック・アドバイジングを中心とした活動を展開しています。大学の国際化に情熱を抱く教員と職員によって構成される混合組織です。

昨今の学生はしばしば「内向き」と指摘されます。しかし実際には、グローバルな活動や国際的な情報に強い関心を抱く学生は数多くいます。このような学生たちのために、GOでは国際的な学生交流を促進します。

その一例として、PEAK Friends という会があります。教養学部では二〇一二年十月より英語のみで授業を履修して学位を取得するコース(PEAK: Programs in English at Komaba)が始まりましたが、その学生は日本語が必ずしも得意ではありません。このPEAK生をサポートするために、教養学部生が立ち上げたのがPEAK Friends です。GOはこれらの学生の活動を積極的に支援しています(これらのイベントには駒場友の会からの補助をいただいております)。

また、学生の海外への関心を高めるために、学内外から講師を招き、セミナーなどを開催しています。これまで、イタリア大使館の文化学術担当官や前駐日スウェーデン大使を招き、それぞれの国の魅力について語っていただきました。コンゴ民主共和国出身の教員によるアフリカ映画のレクチャーや、駒場で政治学を研究する韓国出身の博士課程学生による日本政治の勉強会な



ども開催しました(右の写真)。これらはすべて英語で行われたので、当初はどれだ

け学生が来るか不安もありましたが、一、二年生を中心に、毎回多くの学生が集まり、盛況でした。

留学生が、早く駒場キャンパスに慣れるための支援にも力を入れています。駒場にはPEAK生に加え、短期交換留学プログラム(AIKOM)の学生がいます。教務課と連携しながら、これらの学生が日本人学生と交流を深め、充実した学生生活を送れるようアドバイスをしています。

平日の午前十時半から午後四時半までオフィスを開放し、教養学部生が多文化で多言語な空間にいつでも触れることができるように心がけています。GOの活動から得た経験をもとに、学生たちが世界に羽ばたいて行けるよう、今後も努力を重ねていきたいと願っています。お近くにいらっしゃる際は、ぜひお立ち寄り下さい。

(教養学部准教授、英語部会)

京論壇…日中学生交流で感じたこと

幸松 大喜

京論壇とは、反日反中デモが多発した二〇〇五年に北京大学と東京大学の学生によって結成された学生討論団体です。両大学の学生それぞれ約二五名が日中間の様々な問題について英語で本音をぶつけ合い、徹底的に議論します。二〇一二年度は第七回目となるセッションが九月から十月にかけて北京と東京で一週間ずつ行われました。開催にあたっては、駒場友の会からのご支援(協賛)を頂戴しました。学生の自主的な国際交流団体である京論壇は、このお力添えなしでは成り立ちません。素晴らしい経験をさせていただいたことに、この場をお借りし厚くお礼を申し上げます。

昨年は日中関係の脆弱さが顕在化した年でした。尖閣諸島問題に端を発する政治的摩擦は民間交流にも影響を及ぼし、様々な交流事業が中止となりました。京論壇も開催が危ぶまれました。

しかし、京論壇設立の理念は、



学生だからこそできる本音の議論を通じた信頼関係の構築にあります。だからこそ、「こうした時期に直接現場に足を運び、議

論をし、現状を把握することに大きな意味がある」。京論壇はそう信じ、渡航する決断をしました。

京論壇が目にした中国は、理性と反日感情の微妙なバランス上にありました。北京大生、一般人の多くは領土問題と対日感情の区別をしており、中には「島がなくなればいいのに」と言う人までいました。これはメディアでは見られない中国の一面でした。

その一方、主に貧しい若年層の不満のはけ口となるデモが発生しています。そしてこの運動は熱気を伴い、勢いよく他の人も飲み込んでいきます。「日本人禁止」という看板をあちこちで見かけましたし、普段親日的な北京大生が「親日と思われることが怖い」「デモに巻き込まれたらどうなるかわからない」と述べたことは衝撃でした。日本への潜在的抵抗感は反日のうねりに触発され顕在化するのでしょうか。

日中問題の難しさは、尖閣諸島の議論でも浮き彫りになりました。所有権はどちらにあるのか、歴史や国際法に基づき意見が交わされました。「なぜそう考えるのか?」それを知るべく質問や反論が飛び交いました。

数時間の議論の後、結局所有についての折り合いはつきませんでした。「あなたの主張は論理的に理解できる。でも感情的に受け入れがたい」。ナショナルリズムに基づく強い感情が根底にあり、こうした問題に白黒つけることは不可能に近いという事態の困難さを目の当たりにしたのです。

ではどうすればいいのか? この疑問に対する一つの教訓を今回の経験は与えてくれたと思います。領土や歴史問題の解決は困難でも、信頼関係の構築と協働は可能なのです。それを知った京論壇のメンバー一人ひとりが、両国の将来のために動き出しています。日中の未来の礎の一つに京論壇はならんとしているのです。

(京論壇二〇一二代表、法学部四年)

爽やかな風に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

フランス料理 ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、お支払いの際に会員証・会友証をご提示下さいますと無料になります。

営業時間 11:00 ~ 14:30、17:00 ~ 21:00

Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

駒場友の会会報 第21号

2013年9月10日発行

駒場友の会

〒153-8902

目黒区駒場3-8-1 東京大学

駒場ファカルティハウス内

電話 03-3467-3536

FAX 03-3465-3334

郵便振替口座

00170-3-481649

メール

info-tomo@adm.c.u-tokyo.ac.jp

ホームページ

http://www.c.u-tokyo.ac.jp/

ilovekomaba/

デザイン・印刷 株式会社双文社印刷

http://www.sobun-printing.co.jp